

### 景勝地に受け継がれる「開拓魂」

大分県中津市耶馬溪町の鎌城開拓は、県の北西部で奥耶馬溪に位置する。耶馬溪は日本新三景（他は北海道・大沼公園、静岡県・三保の松原）の一つに挙げられる景勝地。

標高400mの高地で、土壌はおもに安山岩を母体とし、比較的良質であったが、谷が深く日照不足や冬季の寒害が障害となった。

52年、長野県の伊那地方から来た若者が中心となって35戸ほどが入植。台地は荒れ果てた山林原野で、想像を絶する困難が待ち構えていたが、割り当てられた農地を一畝、一畝開墾していった。

当初の栽培作目は、サツマイモや雑こくなどを自給自足していた。

中津市でも海岸に近い開拓地では、生活水準の上昇に伴い、ミカンやブドウなどの果樹栽培が増えてきたが、同地域では気候条件などのためにこれらへの切り換えは困難だった。

傾斜地が多く、畑作でも思うような収穫ができず、畜産や養蚕にシフトしていった。

55年頃には乳牛が導入され、酪農が始まった。当初、牛乳を出荷する際には、旧耶馬溪鉄道の白地駅までの長い山道を、牛乳入りの缶を背負って運んでいたという。

長年の努力と試行錯誤の末、2010年には畑地の50%以上を牧草地とし、酪農・肉牛・養豚・養鶏などの畜産団地として生まれ変わった。

今年3月には、耶馬溪酪農組合、下郷農協、生協の3者で立ち上げた牛乳工場が稼働を始める。

旧鎌城開拓農協「開拓20年の歩み」の中の「追想」という詩に「今振り返り佇めば歩みし道の厳しさは、不屈の開拓魂の汗と涙の結晶を物語るだろう。とこしえに語りつたえてくれるだろう」（抜粋）とある。

地区の道路わきには「開拓の碑」が建てられており、乳牛のモニュメントの畜魂碑とともに、鎌城開拓地を見守り、その歴史を伝えている。

**鎌城**（かまぎ） 44-203-1

- ①調 査 日 平成 30 年 9 月 10 日
- ②所 在 中津市耶馬溪町大字金吉鎌城
- ③地 区 の 沿 革 荒れ果てた山林原野に、長野県伊那地方出身者を中心に昭和 27 年入植した。
- ④設 置 年 月 日 不明
- ⑤設 置 者 不明
- ⑥碑 文（表面） 開拓の碑
- ⑦碑 文（裏面） 確認できず
- ⑧現 在 の 状 況 地区内の道路脇にあり、畜魂碑とともに管理されている。